

## 第3分科会

### テーマ「小中一貫で取り組む、主体的に考える道徳の時間」

提案者 三次市立甲奴中学校  
司会者 三次市立八次中学校  
記録者 三次市立吉舎中学校  
指導助言者 広島県北部教育事務所

#### 1 はじめに

本校は、平成27年度より三次市小中一貫教育の地域指定を受け、甲奴中学校区小中一貫推進協議会を組織し小中一貫教育に取り組んでいる。「ふるさと甲奴を誇りに思い、主体的に学ぶ子供の育成」を目標に、道徳教育、外国語教育を柱として取組を継続している。道徳教育は、校区の教育活動、カリキュラムの基盤として位置づけ、甲奴中学校、甲奴小学校、小童小学校の3校で児童生徒が主体的に考え、議論する道徳の時間の研究実践を行っている。

#### 2 研究のねらい

〈研究主題〉「ふるさと甲奴を誇りに思い、主体的に学ぶ子供を育てる授業の創造」

〈研究仮説〉道徳の時間において、小中で教材分析の方法を統一し、児童生徒が主体的に考え、議論する道徳の授業を創造すれば、道徳的価値についての自覚を深めることができ、基盤となる道徳性が養われ、主体的に学ぶ児童生徒が育つであろう。

〈検証方法〉個々の生徒の道徳的成長をとらえる記述、行動観察、道徳アンケート等

次期学習指導要領において、「特別の教科 道徳」の目標は「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と示している。

甲奴中学校区では、平成27年度より中学校区3校で道徳の時間の授業研究に取り組んでいる。道徳の時間を一方的に伝える授業から、考え、議論する授業へ変革させ、道徳的価値についての自覚を深める指導を行う研究実践を行っている。また「対話力」の系統表を作成し、小中9年間で系統的な育成を図っている。指導にあたっては、教材分析法を研修し発問を工夫し、生徒指導の三機能を生かした協同学習を取り入れ対話することと自己内対話により、ものごとを多面的・多角的に考え、主体的な判断ができるように企図している。道徳の時間において、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てている。

以上のことから、ふるさと甲奴を誇りに思い、主体的に学ぶ生徒を育成することが、本研究の目的である。

#### 3 研究の内容

(1) 道徳の時間の授業改革

一方的に伝える授業から考えさせる授業へ変革させ、道徳的価値についての自覚を深める指導を行う。そのために小中合同研修で教材分析と発問について研究し、研究授業と公開研究会を行う。講師は、大阪教育大学名誉教授 藤永芳純氏、畿央大学教授 島 恒夫氏、大阪市立豊仁小学校長 服部敬一氏である。

## (2) 小中一貫で取り組む道徳の時間の研究実践

甲奴中学校区3校で道徳を柱の一つとし、平成27年度に三つの重点項目を定め、9年間の指導カリキュラムを作成し指導を行っている。目標を達成するために「強い意志」「友情・信頼」「郷土愛」(A-(4) 希望と勇気, 克己と強い意志, B-(8) 友情, 信頼, C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度)を重点とする内容項目とした。この三つを重点項目としたのは、中学校区でめざす子供像「ふるさと甲奴を誇りに思い、主体的に学ぶ子供」の育成と生徒指導の三機能の一つである「共感的人間関係」に奏功し、中学校区の教育活動の基盤となると考えたからである。

また道徳的価値の自覚を深めるために「対話力」の系統表を作成し、小中9年間で系統的な育成を図っている。「対話力」は他者との対話による認識の深化とともに、自己内対話をさせ道徳的価値の自覚を深めさせることをめざしている。

組織としては、小中一貫教育推進協議会研究部会が中心となり、計画的に小中合同授業研修を行っている。また各校の校内研修会にも参加し、研修を深めている。

## (3) 研究の検証

ア 道徳アンケート

イ 個々の生徒の道徳的成長をとらえる記述, 行動観察

ウ 協同学習における生徒の対話の記述

## 4 研究の実際

### (1) 道徳の時間の授業改革

「考え, 議論する道徳」

一方的に伝える授業から考えさせる授業へ変革させ、道徳的価値についての自覚を深める指導を行う。そのために研究部が中心となり教材分析の仕方を中学校区の教職員で研修し、共有した。

「考え, 議論する道徳」「道徳的価値の自覚」を、「特別の教科 道徳」の目標に沿い、小中合同で次のように研修し、整理している。

「考え, 議論する道徳」

- |                          |                         |
|--------------------------|-------------------------|
| ・道徳的諸価値についての理解を基に        | 道徳的諸価値＝内容項目「解説」を熟読して授業へ |
| ・自己を見つめ                  | 教材の登場人物への自我関与           |
| ・物事を広い視野から多面的・多角的に考え     | 一面的にならない, 対話・議論のある授業    |
| ・自己の生き方についての考えを深める学習を通して | 自分の腑に落ちる授業              |

「道徳的な価値の自覚」

- |                             |               |
|-----------------------------|---------------|
| ・道徳的な価値についての理解              | 「意味が分かって」     |
| ・自分との関わりでとらえる               | 「他人事でなく」      |
| ・自分なりに発展させていくことへの想いや課題が培われる | 「腑に落ちて, うれしい」 |
| ・・・学んだことが自分のエネルギーとして生きること   |               |

## ア 教材研究

児童生徒の思考，対話を促すのは，周到な教材分析に基づいた授業構想と発問である。教材研究においては，資料1のような教材分析シートを用いて教材分析を行うことを小中で共有した。そして，表の一番下に記述する「道徳的価値，考え方や生き方，信念」に切り込む授業が大切であること，そのために価値に迫る発問を行うことを確認した。

そして，指導案のねらいの書き方を「(教材の主発問で考えさせる部分)を通して，(教材分析の生徒に気付かせたい部分)に気付き，(教材分析シートが一番下の部分)しようとする心情を育てる。」と具体的に記述することとした。

【道徳的価値の自覚を深める指導になるために】  
—考えさせる道徳・議論する道徳—

行い・行動  
 登場人物が  
 感じたこと  
 考えたこと  
 道徳的価値  
 考え方や生き方  
 信念

行い 行動	・ ・ ・
登場人物が 感じたこと 考えたこと	・ ・ ・ ・ ・ ・
道徳的価値 考え方や生き方 信念	・ ・ ・ ・

## イ 指導

- ・教材分析をもとにした中心発問において，まず自分の考えを記述させる。(自己決定の場合)
- ・「対話力」を伸ばしながら，学びをつなぎ，道徳的価値への自覚を深める生徒指導の三機能を生かした授業を行う。道徳的価値の自覚に十分迫れない場合は，切り返し発問を行う。
- ・授業検証(協同学習における生徒の対話の記述，生徒記述，生徒アンケート)

## ウ 道徳の時間の評価の研修

- ・個々の児童生徒の道徳的なよさを認めたり，道徳的成長を見取ったりしながら記述していく。
- ・道徳性に係る成長の様子(新しい考えや知らなかったことに出会っている，価値語・関連語・ねらいに関わる語・事例の出現，既知の考えが深まっている)
- ・学習状況(自分の考えを持っている，発表できている，他者の考えや発表を聴くことができている，文章の量と質，発表の様子)

## エ 育成する資質・能力として「対話力」

「対話力」の系統表を作成し，小中9年間で系統的な育成を図る。

### (2) 小中一貫で取り組む道徳の時間

ア 三つの重点項目を定め，9年間の指導カリキュラムを作成し，指導を行う。

イ 小中一貫教育研究部を中心に小中合同授業研修会を計画的に行う。

甲奴中学校区小中一貫協議会研究部が中心となり，道徳の時間の小中合同授業研修を行っている。(5月22日：甲奴小，6月22日：甲奴中，10月26日：小童小)

授業構想，模擬授業，研究授業，事後研修の流れで研修を行っている。

事後研修の討議の柱を「自分との関わりで道徳的価値をとらえられる発問構成であったか」「対話の仕組み方は生徒の考えを深める上で適切であったか」と設定し，協議を行っている。

### ○小中合同授業研修(5月22日：甲奴小)

小学校6年生で，「手品師」を教材に，主題「明るく生きる」にせまる授業を行った。主人公の心情を読み取るだけに終わらず，自分の経験を交流させることで，道徳的価値をとらえさせようとする授業であった。



小中合同授業研修（甲奴小6年）



講師による示範授業

### ○小中合同授業研修

（6月22日：甲奴中）

中学校1年生で、「さよなら  
ホストファミリー」を教材に、  
主題「国を愛する態度」にせまる  
授業を行った。

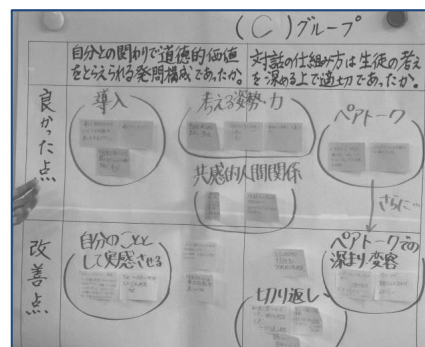
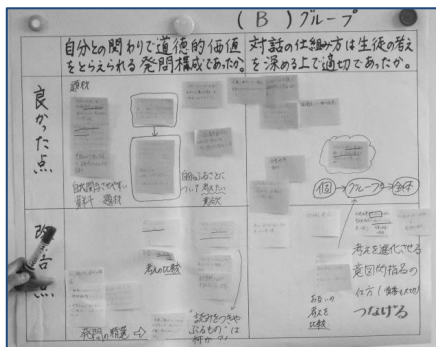
甲奴町で行われているアメリ  
カス市との国際交流活動と  
いう体験を踏まえ、身近な題材  
として、まさに「自分のこと」  
として考えさせることができた。  
最後の振り返りの仕方につ  
いても、ただ感想を書くだけ  
にならないよう、1時間を通して  
「わかったこと」を記述させる  
など、授業改善に向けて研修す  
ることができた。



小中合同授業研修（甲奴中1年）



小中合同授業研修（事後研修）



小中合同授業研修（KJ法による各グループの記述）

### ウ 三次市甲奴中学校区小中一貫教育研究会（9月24日）

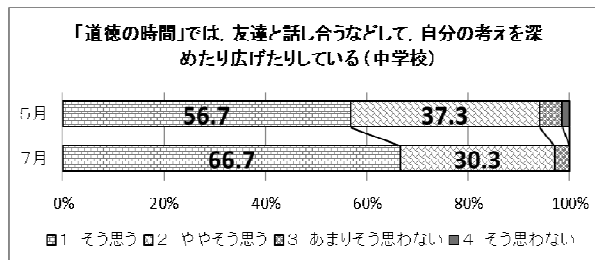
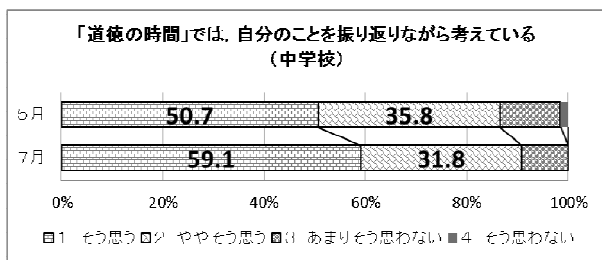
中学校区3校（甲奴中，甲奴小，小童小）で全学年，全学級で道徳の時間の授業公開を行う。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

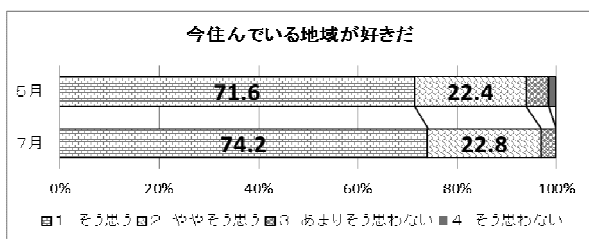
ア 道徳アンケートから

児童生徒に道徳の時間に関する意識調査を、5月と7月に実施した結果の一部は、次の通りである。



『道徳の時間』では、自分のことを振り返りながら考えている」という質問項目について、「そう思う」と答えた生徒の割合が8.4ポイント上昇した。道徳の時間の中で、「他人事ではなく」、「自分のこと」として課題をとらえさせるという取組が奏功したと考える。

また、『道徳の時間』では友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりしている」という質問項目について、「そう思う」と答えた生徒の割合が10ポイント上昇した。中学校区で育成すべき資質・能力としての「対話力」を共有し、道徳的価値への自覚を深める授業づくりの研究実践を行っている成果と考える。



さらに、「今住んでいる地域が好きだ」という質問項目について、肯定的評価が2.9ポイント上昇し96.9%に達している。これは、中学校区で3点の重点項目を定め、9年間のカリキュラムを作成し指導を行っている成果と考える。

イ 個々の生徒の道徳的成長をとらえる記述, 行動観察から～授業の中で～

A- (4) 克己と強い意志 <最初の記述>

自分だったら、魔法のつむぎ糸を引くと思う。一回は試してみたいから。

<最後の記述>

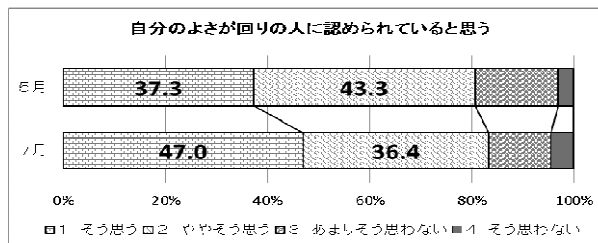
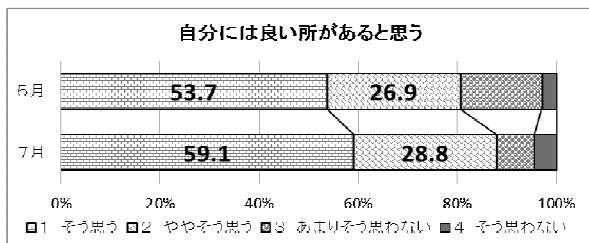
自分の人生は、つらいことを乗り越えて成長していくので、つらいことも楽しいことも自分自身で乗り越えて成長していきたい

C- (16) 郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度

○授業で「自分の故郷について」先生に聞かれると、頭の中に、パッと浮かぶものが私にはまだなかったけれどふるさとである甲奴にはたくさんの文化やよい良い所があるので、それを忘れずにしていきたい。

○自分の国の文化をあたりまえだと思わないで、しっかり勉強して英語でも伝えられるようにしたい。  
僕には外国のおじいちゃんがいるから、日本の良さが伝えられるようにしたいです。

(2) 課題と今後に向けて



意識調査の中で、「自分には良い所があると思う」や「自分の良さが回りの人から認められていると思う」など自己肯定感を問う質問項目に対する肯定的評価が、伸びてきているとは言え、相対的に低い。今後さらに小中合同授業研修や各校の校内授業研修などの取組を通して、教材分析の質を高め、より対話的に自他の考えを交流・比較し、考えが深まるよう発問を精選・工夫し、生徒指導の三機能を生かした授業づくりの研究実践を継続していく。